幼児における発話と身振りの統合的理解の発達

—暗喩的身振りを指示する発話の効果—

○三宅英典・杉村伸一郎

(広島大学大学院教育学研究科)

キーワード：身振り、発話、統合的理解

The Effects of a Directive Word on Integrated Comprehension in Speech and Abstract Gesture in Young Children

Hidenori MIYAKE, Shinichiro SUGIMURA

(Graduate School of Education, Hiroshima University)

Key Words: Gesture; Speech; Semantics integration

問題と目的

日々のコミュニケーションにおいて、聞き手は、話者のメッセージを深く理解するために、発話だけでなく身振りも考慮に入れている (Kelly et al., 2010)。発話と身振りの統合的理解の発達に関して現時点で明らかになっていることは、身振りが映像的な場合は5歳児から統合的理解が可能 (Sekine et al., in press)、暗喩的な場合は4歳児で可能 (Theakston et al., 2014) という2点のみであり、暗喩的身振りにおいては4歳児以降の統合的理解の発達は明らかにされていない。また、Sekine et al. (in press) によると、発話と身振りの統合的理解は幼児に直接実演してみせることで促進され、3歳児でも可能になることが示唆されている。しかし、幼児を取り巻く環境では、発話と身振りは直接実演してみせることが大半であり、先述した知見を保育の実践場面に活用するためには、実演以外で発話と身振りの統合的理解を促進する要因を検討する必要がある。

そこで本研究では、実際の保育場でしばしば観察された、「これくらい」という、何かを指示することでメッセージを間接的に伝達する指示語発話を統合的理解の促進要因として検討することも合わせて、幼児における発話と暗喩的身振りの統合的理解を発達的に明らかにすることを目的とする。

方 法

実験計画は、年齢×指示語発話×課題の条件の3要因混合計画とした。参加者は、年少児31人(平均年齢3歳7ヶ月、年齢範囲3歳4ヶ月～4歳1ヶ月)、年中児40人(平均年齢4歳9ヶ月、年齢範囲4歳4ヶ月～5歳4ヶ月)、年長児34人(平均年齢5歳9ヶ月、年齢範囲5歳5ヶ月～6歳4ヶ月)であった。

指示対象の種類によって、幼児の発話と身振りの統合的理解が異なる可能性を考慮し、課題は2つの条件設定をした。1つ目は、2種類の情動を表す表情(嬉しさ/怒り)において、情動の程度を強弱に分けたものを用意し(表情条件)、2つ目は、2色の色紙(青/黄)において、色の程度を濃淡に分けたものを用意した(濃淡条件)。身振りは程度の強弱(濃淡)を大小の楕円で表現した。幼児は、Figure 1の手順で発話(嬉しい/怒っている、青い/黄色い)と身振り(とても/少し)を提示され、4つの選択肢から一致するものを選ぶよう指示された。発話と身振りが提示される際、幼児は発話に指示語発話(これくらい)が付加される群と、付加されない群に分けられた。各課題は4試行ずつ、計8試行実施した。

Figure 1. 実験手続き

Figure 2. 指示語発話の有無と課題の条件別の得点

結果と考察

実験者の説明する指示対象と一致する選択をした場合に1点、その他を選択した場合は0点を与え、4試行の合計得点を算出し、各年齢群の結果を、指示語発話の有無と課題の条件別に Figure 2 に示した。

課題の正答数について、年齢×指示語発話(あり/なし)×課題の条件(表情/濃淡)で分散分析を実施したところ、指示語発話のみの主効果が有意であり、年齢の主効果はみられなかった(順に $F(1, 99)=9.17, p<.01$; $F(2, 99)=1.95, ns$)。また、課題に誤答した幼児の多くは、一貫して身振り情報の理解を誤っており、統合的理解に失敗した際には、発話情報が優先されることが示唆された。

これらの結果から、指示語発話が統合的理解を促進したことが示され、幼児は4歳から発話と暗喩的身振りを統合的に理解できるものの、統合的理解が高まるのは就学以降である可能性が示唆された。

引用文献

- Kelly, S. D., Özyürek, A., & Maris, E. (2010). Two Sides of the Same Coin: Speech and Gesture Mutually Interact to Enhance Comprehension. *Psychological Science*, *21*, 260-267.
- Sekine, K., Sowden, H., & Kita, S. (in press). The Development of the Ability to Semantically Integrate Information in Speech and Iconic Gesture in Comprehension. *Cognitive Science*. doi: 10.1111/cogs.12221
- Theakston, L., Coates, A., & Holler, J. (2014). Handling Agents and Patients: Representational Cospeech Gestures Help Children Comprehend Complex Syntactic Constructions. *Developmental Psychology*, *50*, 1973-1984.